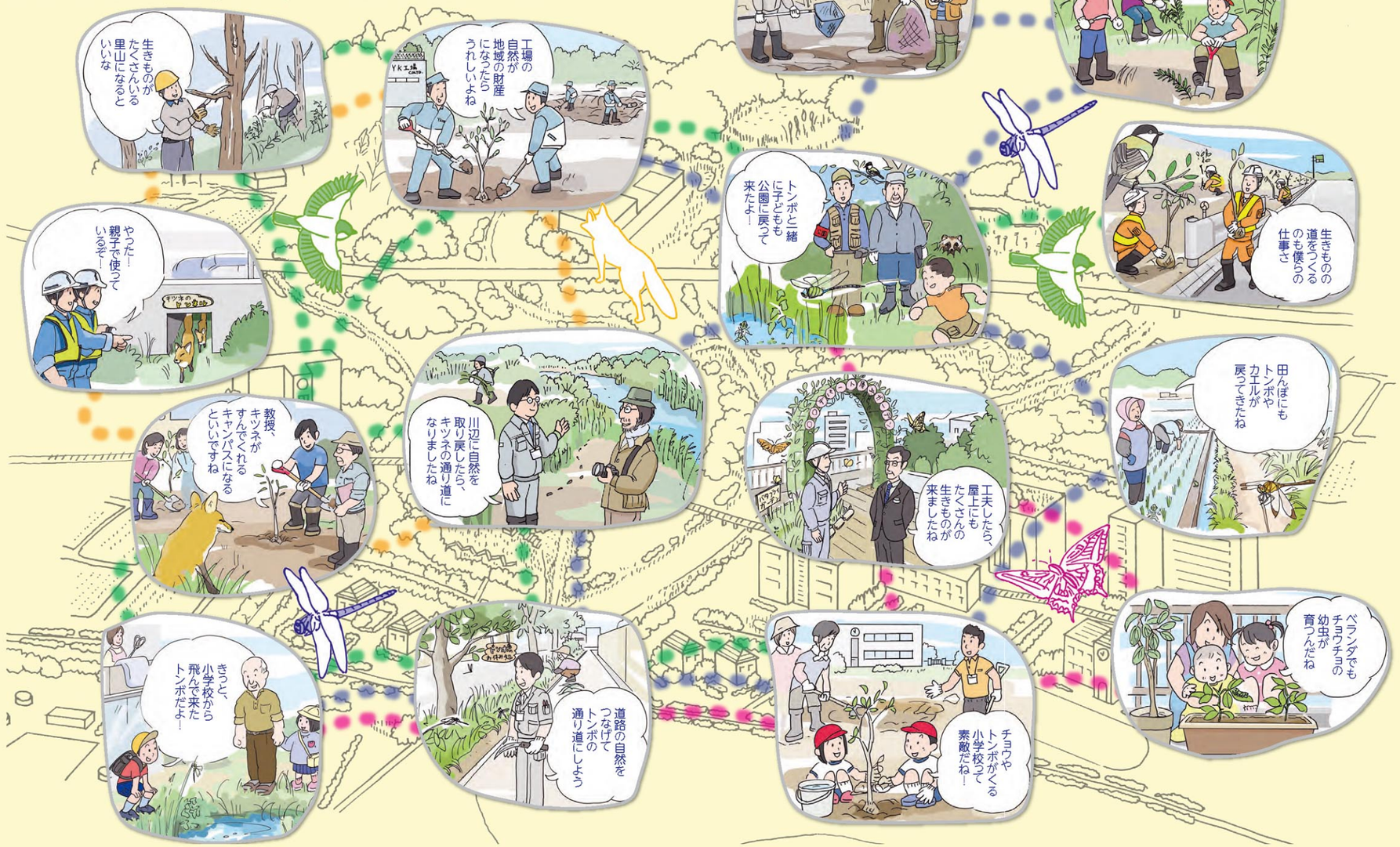
「人と自然の共生」に向けた、あいちのコラボレーション

人のつながりが育む、生きもののつながり

自然と共に生きること「自然との共生」は、私たちにとってかけがえのない幸福であると考えます。土地を所有する人、開発する人、自然を守る活動をする人、様々な立場の人々がコラボレーション（協働）をして、生態系を取り戻す活動を始めませんか。私たちが暮らし、働き、学ぶ場所に、自然の豊かさを取り戻しましょう。（イラストは「生態系ネットワーク」のイメージです。）



行動計画
～「自然との共生」心豊かな暮らしに向けたチャレンジ～

本戦略の2020年までの目標である「生物多様性の損失を止めるための具体的な行動の実施」に向けて、次に示す5つを行動計画の柱としながら214の行動計画と32の数値目標を設定しました。これらの行動を、県民・事業者・NPO・市町村・県のコラボレーション（協働）によって推進します。

行動計画の柱	大項目		
A 生態系ネットワークの形成	A-1	重要な生物生息地の保全	
	A-2	様々な場所での生物の生息生育空間の保全と再生	
	A-3	生態系ネットワーク形成を推進するための取組	
B 経済と生物多様性の調和	B-1	あいちミティゲーションの推進	
	B-2	企業活動における生物多様性の保全と持続可能な利用の推進	
	B-3	農林水産業における生物多様性の保全と持続可能な利用の推進	B-3-1 農　業
			B-3-2 林　業
			B-3-3 水産業
	B-4	自然の恵みに支払う仕組みづくり	
	B-5	地球温暖化への対応	
C 野生生物の保護と管理	C-1	希少野生生物の保護	
	C-2	外来種対策の強化	
	C-3	野生生物の適切な保護管理	
D 生物多様性の価値の共有	D-1	環境学習の推進	
	D-2	生物多様性に関する調査・研究の促進	
E 多様な主体の参加と協働	E-1	自然とのふれあいの推進	
	E-2	多様な主体の参加と協働の促進	
	E-3	総合的、広域的な取組の推進	

地域への展開
～気づき・まもり・つなげるコラボレーション～

多様な主体が、生物多様性の保全のための行動を、地域の自然のあり方や目指すべき姿について共通の認識をもって、コラボレーション（協働）によって進めるために、県が支援して、県内9地域ごとに「生態系ネットワーク協議会」を立ち上げます。

知多半島生態系ネットワーク協議会
ごんぎつねと住める知多半島を創ろう

知多半島地域では、平成22（2010）年に「知多半島生態系ネットワーク協議会」を設置し、大学、企業、NPO、市町が協力して、「ごんぎつねと住める知多半島を創ろう」をテーマに、生態系ネットワークの形成に向けた事業を推進しています。

そのひとつとして、東海市・知多市の海沿いに立地する工業地帯では、幅100m、延長10kmにおよぶグリーンベルトや周辺地域において、11社が協力して生態系ネットワークの形成を図る取組が行われています。この取組には学生が参加し、その活動の経過や成果をフリーペーパーとして地域に発信しています。

グリーンベルトは、約10kmにわたって幅100mで形成されています。

東部丘陵生態系ネットワーク協議会
23大学が先導する、ギフチョウやトンボの舞うまちづくり

東部丘陵地域では、平成23（2011）年に「東部丘陵生態系ネットワーク協議会」を設置し、当地域に立地する 23 大学が中心となって、住民や事業者、行政と協力しながら、生態系ネットワークの形成を進めています。生物多様性を学び、保全のために行動する人を育む「あいち自然再生カレッジ」、生態系ネットワークの形成をテーマとした「フォーラム」の開催のほか、大学内での生物の生息生育空間の再生などに取り組んでいます。

参加大学の位置

西三河生態系ネットワーク協議会
あいちライフスタイル

～最先端のものづくりと最先端のエコロジーが好循環する暮らしを目指して～

西三河地域では、平成23（2011）年に「西三河生態系ネットワーク協議会」を設置し、環境と経済の好循環を目指して、大学や企業、NPO などの様々な団体の協力によって、生態系ネットワークの実現に向けた事業を進めています。

地域住民が家庭で在来種の苗木を育てるプロジェクト